

体表面エコーによるステントグラフト内挿術後のフォロー グラフトによる検査時留意点

【背景】ステントグラフト内挿術の普及につれ当院では術後のフォローアップとして単純 CT 検査、造影 CT 検査、エコー検査を実施している。なかでもエコー検査は非侵襲であり、造影剤を使用しないという点で重視されている。しかしながら術者の技量、患者側の因子等結果がさまざまな状況に左右されてしまうという問題点が挙げられる。【目的】検査結果を左右する因子の中で当院で使用しているステントグラフトの種類による特徴について検証した。【方法 1】2011 年 3 月から 2018 年 2 月の期間に当院でステントグラフト内挿術を施工した症例のうち、フォローアップとしてエコー検査を実施した症例を集めグラフトごとによる検査結果を比較した。【方法 2】エコー検査を複数回実施した症例について術後の期間における血流の検出能を比較した。【結果 1】グラフトの材質によっては血流の検出が困難でありエンドリークの位置によっては検出不可となるケースが見られた。【結果 2】同一のグラフトであっても遠隔期には血流の描出に改善が見られた。【結語】ステントグラフトごとのエコー検査に対する特性を理解することで検査結果の向上に繋がると考えられる。